

ハイライト

子供たちに未来を語る

カシオは次世代を担う子供たちにより良い未来を築いてもらうため、工場見学や社員の出前授業に取り組んでいます。

企業が教育にかかわる意義

7年前、甲府カシオの2人の社員から始まった「子供たちに夢を与えよう」という取り組みは、生産現場を見てもらう工場見学プログラムから環境への配慮と、何よりも大切な命を見直してもらう独自のプログラムとして発展しました。また、2007年からは小学校等の依頼を受けて訪問して行う出前授業が始まり、取り組みは全国へ広がり始めています。

出前授業のプログラムは大きく分けて3部構成です。最初に「絆・創造・心の成長」を通して命の大切さを語ります。次に環境に配慮した商品技術として電卓の分解、組み立てを体験し、最後に地球環境保護の大切さなど具体例を通して説明する90分の授業です。大切な事は、子供たちに世界で起きている事実を伝え、自分が何をできるのかを肌感覚としてもってもらう事です。子供たちが自ら考え、思いやり、やさしさ、親切、笑顔が大事である事に気づく事で、豊かな心を育んでもらう事を意図しています。

人を思いやる心をもった子供たちが社会に出る事は、より良い社会を構成する第一歩です。キチンと次の世代にバトンタッチする事は、企業の社会的な責任と考え、教育現場の方々と協力しながら、工場見学、出前授業などの活動を実施しています。



カシオ社員による出前授業



担当者の声



CSR推進室
若尾 久

子供の力が大人の世界を変える。やがて世の中を動かしていく子供たちに、健全でやさしい心を育んでももらいたい。そう誰もが願うはず。だから、企業として社会貢献の一環として取り組むべきだと考え、行動してきました。

何故、命なのか、と良く聞かれます。メーカーであるカシオにとって、安心安全なモノづくり、すべての生命をつくる環境への配慮といった事は、重要な企業責任のひとつであり、これは命を大切にする事につながるのだと考えるからです。そこから人を思いやる心、モノを大切にする気持ち、自然環境保護に取り組む意識が芽生えてくると確信しています。これからも心の豊かさを大切にする取り組みに全力で取り組んでいきたいと考えています。

国内工場・事業所への広がり

現場を公開する事で企業理解を深めてもらう「1万人の工場見学」プロジェクトが甲府カシオで始まったのが2004年でした。それから多くの小中学生にモノづくりを知ってもらい、さらに生きる事の大切さを学んでもらいました。さらに、2007年からは八王子技術センターでも、より環境面を重視した形で展開しています。

八王子技術センターの見学は、環境に配慮した設備等を実際に見てもらい、省エネなどの取り組みを通して環境保全の考え方を知ってもらいます。そこでは命の大切さから環境の大切さへとつなげる独自のプログラムで先生方からも高い評価をいただいています。ただ、見学は施設内の制約もあり1回に70人程度が限界です。そこでより多くの子供たちに語りかけるため、小学校へ出向く“出前授業”を実施しています。

2009年度は見学と出前授業を合わせ700人の子供たちへ、命と環境の大切さを語る事ができました。語り終わった直後の子供たち、先生方からの反響は大きく、後から寄せられる感想文などを通して、着実な成果が実感できる取り組みとなっています。

2010年度からは、東京都、株式会社東芝、テックエンジニアリング株式会社などとも協働し、活動は広がっています。

担当者の声



八王子総務課 課長
川合 久美子

地域貢献の形で、環境に配慮した当施設の見学会を実施し、出前授業にも取り組んできました。少しでも多くの子供たちに命の大切さ、地球環境保護の意識を感じ取ってもらう事が大事です。活動を通して私たちも学ぶ事が多く、さらなる向上心が湧いてきます。生徒たちの真剣な眼差しに応えられる密度の濃い授業を目指します。

担当者の声



八王子総務課
川幡 貴世江

見学に来られる小中学生の生徒さんたちに、モノづくりに興味を抱いてもらいたい、カシオのファンになってほしいという気持ちで接しています。この体験がきっかけとなり、個々の多様な感性が生徒さんたちの中で芽ばえ、育まれていく事を願っています。生徒さんたちの反応は私たちにとっても刺激となり、力になっています。

担当者の声



カシオビジネスサービス
八王子支店

風間 清

ここは生産現場ではなく研究所ですので、環境配慮型の建物と運用面を知ってもらい見学コースを組んでいます。甲府カシオの見学プログラムを改定し、地球環境保護と電卓の組み立てなどの体験学習、命の大切さを子供たちに伝えています。社員もこの活動に協力的。小さな取り組みですが、大きな成果につながると確信しています。

出前授業・協働企業の声



テックエンジニアリング株式会社

金沢 直美さん

カシオ計算機様とは、キッズ ISO14000 プログラムに取り組む東京都のパートナー企業という立場で、大変お世話になってまいりました。

2009 年からは、都内特別支援学校での出前授業の協働という機会をいただき、1 社では成し得ない多様な学びの場を提供する事ができました。

カシオ計算機様は「電卓」、弊社は「レジスター」、ともに生活の近くにある機器をテーマにした体験型授業を中心に、命や自然科学に関する授業にも取り組みました。生徒の皆さんは、それぞれの感覚でつかみとった気づきを、情感豊かな言葉や行動に変えて伝えてくれます。そんな時私たちはハッとさせられ、「ともに学び合っている」と実感します。

これは企業という枠を超え、生徒の皆さんにとって真に価値ある体験を目指して協働できた事の結果であり、大きな財産であると感じます。

今後も企業間で連携し、持続可能な社会のための「人の育成」に貢献していく事ができればと考えています。

地域との共生に取り組む海外拠点

カシオタイで地元大学生の工場見学

カシオタイでは 10 月、エンジニアを目指す約 50 人の大学生たちの工場見学を受け入れました。学生たちは、効率性、生産性に優れた時計製造ラインとそこで活躍する技術者たちの作業を熱心に見学しました。この他カシオタイは、近隣で開催されるイベントへの参加や、孤児院・病院への訪問や寄付などの社会貢献活動を積極的に実施しています。



工場見学に参加いただいた地元大学生

専門学校生 280 人の研修受け入れ

中国の華南地域で電子辞書、電子ピアノなどを生産するカシオ中山は 12 月、香港の高校生たちを受け入れました。香港の高校は欧米系の企業を訪問するのが通例でしたが、今回は日系企業を望む生徒たちの強い希望からカシオに要望があり、今回の受け入れとなりました。先生方からも「これまでの工場見学とは違い、とても勉強になった」との感想を頂戴しています。

また、同時期に河南省の専門学校からの要請を受け、学生 280 人を研修生として受け入れました。学生たちには辞書製造ラインで実際の作業に携わってもらい、貴重な現場を体験してもらいました。



工場見学に参加いただいた香港の高校生

日本の大学生の国際感覚を養う場に

カシオインディアでは 11 月、国際経営論を学ぶ立教大学の教員・学生 20 人の訪問を受け入れました。インドでの国際大会への参加に併せ、海外で活躍する日系企業の活動を見学するためにカシオインディアへの訪問となりました。当日はカシオがインドで果たす役割などについて白熱した英語でのディスカッションが行われるなど、有意義な一時をもつ事ができました。直接的な地域貢献ではありませんが、将来学生たちの中からインドへ貢献する人材が育つ事を願っています。



企業訪問に訪れた立教大学の教員・学生の皆様